



第50号

梅苑会報



福島県立福島高等学校

「創立120周年記念式典・講演会」

演題 音楽とは、祭りとは
即興と社会について震災後の福島での活動をもとに考える
講師 音楽家 大友良英（高校30回卒）



昨 年10月6日（土）、とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）で記念式典が挙行政され、記念講演として、平成25年にNHKで放送された朝の連続テレビ小説「あまちゃん」や、1月からスタートした大河ドラマ「いだてん」の音楽を担当している大友良英氏（高校第30回卒）による「音楽とは、祭りとは」即興と社会について震災後の福島での活動をもとに考える」と題した講演の中で、生徒と一体となつた素晴らしい演奏が盛大に行われた。

記念事業としては、「不忘池（心字の池水）」の整備・校内備品の整備（第一体育館用シートの更新・第二体育館放送設備・製氷機の更新）が実施された。

さらに、記念祝賀会が「ホテル辰巳屋」にて、盛大に行われた。冒頭に歴代校長、歴代PTA会長、歴代同窓会会長、特別功労者・団体の方々が表彰された。



平成31年度予算書（30年9月1日～31年8月31日）

平成31年度 一般会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	389,244		
(2)入会金	963,000	卒業生（321名×3,000円）	
(3)年会費	2,921,000	卒業生（321名×1,000円） 同窓会会員（約1,300名×2,000円）	
(4)雑収入	30,000	利息、寄付金等	
(5)繰入金	1,000,000	母校後援会会計より	
合 計	5,303,244		

2.支出の部

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
1.事業費	4,000,000		
(1)総会費	680,000	定期総会開催に関する費用	
(2)会報費	3,000,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙	
(3)母校後援費	290,000	卒業生証書ホルダー	
(4)特別事業費	30,000		
2.運営費	875,000		
(1)会議費	200,000	役員会、幹事会	
(2)事務諸費	5,000	振り込み手数料他	
(3)交際費	100,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、職員饗別、その他	
(4)庶務費	20,000		
(5)通信費	40,000	切手、葉書代	
(6)旅 費	500,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費	
(7)雑 費	10,000		
3.予備費	428,244		
合 計	5,303,244		

項目間の流用をお認め願います。

平成31年度 母校後援会会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	5,854,800		
(2)会費	1,200,000	卒業生(321名×1,000円)、同窓会会員(約600名)	
(3)雑収入	1,000	利息等	
合 計	7,055,800		

2.支出の部

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)後援会費	300,000	HP更新、母校への助成等	
(2)部活動助成	300,000	全国大会出場の一部への激励金	
(3)梅苑会館維持管理費	500,000		
(4)会員名簿管理費	710,000	H30年度	
(5)予備費	5,245,800	繰入金等	
合 計	7,055,800		

項目間の流用をお認め願います。

平成31年度 梅苑会館維持管理会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	3,727,273		
(2)積立金	500,000	母校後援会会計より	
(3)雑収入	50	利息等	
合 計	4,227,323		

2.支出の部

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)修繕費	200,000		
(2)予備費	4,027,323		
合 計	4,227,323		

平成31年度 太宰府梅基金会会計予算書（案）

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	2,547,592		
(2)同窓会梅基金	650,000	同窓会会員（約450名）	
(4)雑収入	100	利息等	
合 計	3,197,692		

2.支出の部

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)飛び梅交際費	450,000	交際費、接待費、諸経費等	
(2)飛び梅管理費	40,000	肥料・消毒代等	
(3)予備費	2,707,692		
合 計	3,197,692		

項目間の流用をお認め願います。

平成31年度 一六回奨学会会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	9,500,134		
(2)同窓会寄付金	0		
(3)雑収入	50	利息	
合 計	9,500,184		

2.支出の部

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)交付金	3,500,000	H31年度交付金（7名）	
(2)予備費	6,000,184		
合 計	9,500,184		

項目間の流用をお認め願います。

平成30年度決算書（29年9月1日～30年8月31日）

平成30年度 一般会計決算書

収入決算額・・・5,037,121円 支出決算額・・・4,647,877円 次年度へ繰越額・・・389,244円

1.収入の部

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	687,112	687,112		
(2)入会金	945,000	945,000	卒業生（315名×3,000円）	
(3)年会費	2,915,000	2,905,000	卒業生（315名×1,000円） 会員（999名）	
(4)雑収入	30,000	9	利息等	
(5)繰入金	500,000	500,000	母校後援会会計より	
合 計	5,077,112	5,037,121		

2.支出の部

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
1.事業費	3,670,000	3,820,504		
(1)総会費	680,000	607,881	定期総会開催に関する費用	
(2)会報費	2,680,000	2,929,903	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙	
(3)母校後援費	280,000	282,720	卒業生証書ホルダー	
(4)特別事業費	30,000	0		
2.運営費	895,000	827,373		
(1)会議費	200,000	201,757	H29年第2回、H30年第1回役員会	
(2)事務諸費	5,000	0	文具費	
(3)交際費	100,000	55,000	関東・みやぎ梅苑会参加費、転出者饗別	
(4)慶弔費	20,000	0		
(5)通信費	40,000	28,196	往復葉書、切手	
(6)旅 費	500,000	542,420	関東・みやぎ梅苑会出席旅費	
(7)雑 費	30,000	0		
3.予備費	512,112	0		
合 計	5,077,112	4,647,877		

平成30年度 母校後援会決算書

収入決算額・・・9,388,999円 支出決算額・・・3,534,199円 次年度へ繰越額・・・5,854,800円

1.収入の部

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	8,250,930	8,250,930		
(2)会費	1,250,000	1,138,000	卒業生（315名×1,000円） 会員（593名）	
(3)雑収入	1,100	69	利息	
合 計	9,502,030	9,388,999		

2.支出の部

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)後援会費	500,000	141,699	同窓会HP開設、賞状名入れ、記念品	
(2)部活動助成	500,000	189,960	全国大会出場助成等	
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	500,000		
(4)会員名簿管理費	710,000	702,540		
(5)予備費	7,292,030	2,000,000	一般会計への繰り入れ、 120周年記念事業への繰り入れ	
合 計	9,502,030	3,534,199		

平成30年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書

収入決算額・・・3,741,637円 支出決算額・・・14,364円 次年度へ繰越額・・・3,727,273円

1.収入の部

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	3,241,610	3,241,610		
(2)積立金	500,000	500,000	母校後援会会計より30年度分	
(3)雑収入	50	27	利息	
合 計	3,741,660	3,741,637		

2.支出の部

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)修繕費	200,000	14,364	梅苑会館修繕費（布団代、冷蔵庫代）	
合 計	200,000	14,364		

平成30年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計決算書

収入決算額・・・2,941,556円 支出決算額・・・393,964円 次年度へ繰越額・・・2,547,592円

1.収入の部

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	2,255,017	2,255,017		
(2)同窓会梅基金	650,000	686,523	同窓会会員（436名）	
(3)雑収入	100	16	寄付金、利息	
合 計	2,905,117	2,941,556		

2.支出の部

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)飛び梅交際費	400,000	393,964	旅費、接待費、贈答品	
(2)飛び梅管理費	40,000	0		
(3)予備費	2,465,117	0		
合 計	2,905,117	393,964		

平成30年度 福島高校同窓会一六回奨学会会計決算書

収入決算額・・・10,500,134円 支出決算額・・・1,000,000円 次年度へ繰越額・・・9,500,134円

1.収入の部

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	10,500,044	10,500,044		
(2)寄付金	0	0		
(3)雑収入	50	90	利息	
合 計	10,500,094	10,500,134		

2.支出の部

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)交付金	3,500,000	1,000,000	H30年度交付金（2名）	
合 計	0	1,000,000		

同窓会会長
渡辺 健寿
(高校第17回卒)120周年から
新たな歩みを

昨年、平成30年は福島高等学校創立120周年にあたり、10月6日に創立120周年記念式典・講演会、祝賀会が盛大に挙行されました。

式典での大江妃さんの生徒代表のことは、福島高校の伝統、自主独立の精神を訴えるすばらしいものでした。記念講演には音楽家大友良英さん（高校30回卒）の「音楽とは祭りとは」との演題で、在校生たちも参加する即興の演奏をまじえた型破りともいえる講演があり、会場は大いに盛り上がりました。遠く太宰府天満宮から西高辻信良宮司、毛利清彦権禰宜のご臨席をいただいたことも大きな喜びでした。

創立120周年の節目に、校歌を斉唱しながら福中、福高と受け継がれて来た長い歴史と伝統に思いを致し、まさに感激の極みでした。在校生にとっても深く心に残るものとなったと思います。

また、記念事業として、本校前庭に設けられた不忘池（心字の池水）の整備および校内備品の整備（第一体育館用シート更新、第二体育館放送整備、製氷機）を実施することができました。多大のご支援ご協力をいただいた同窓会、PTA、教職員、地域の方々に厚く御礼申し上げます。

11月30日には福島グリーンパレスにおいて本会総会を開催しましたが、300名を超える会員の熱心なご参加を得て、盛会裡に終えることができました。

関東梅苑会、みやぎ梅苑会からも多数の参加があり、また、同期生のグループに加えて職域での同窓生グループの参加が増えているように感じられ、大変うれしく思いました。

総会の記念講演には、宇宙航空研究開発機構（JAXA）春山純一助教（高校35回卒）より「月の縦孔（たてあな）・地下空洞とは何か」と題して、最新の

月面調査結果を踏まえた興味深いお話をうかがうことができました。講演の企画をしていただいた関東梅苑会のご配慮に感謝申し上げます。

さて、本年は平成最後の年となります。4月30日をもって天皇陛下のご退位、5月1日には新天皇陛下のご即位があり、新元号のもとに新しい御代となります。また、本年は亥年、「亥」は草木など植物の生命がその内に宿る状態とされ、新たな芽をだす準備の年とされています。

福島高校にとって本年が創立120周年から新たな歩みを始める出発の年となるものと期待し、同窓会として母校、在校生に出来る限りの支援をしていきたいと考えています。

会員の皆様には、同窓会の活動に一段のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福高
同窓会総会

平成30年度「福高同窓会総会」が11月30日（金）18時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。総会に先立って宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所太陽系科学研究系春山純一助教（高校35回卒）による「月の縦孔・地下空洞とは何か」と題した記念講演がありました。「宇宙」特に「月探査」に関してのお話をユーモアを交え、熱く講演頂きました。さらに、当日は同窓生のご厚意により、「SSH地学班」の生徒7名が最前列で講演を聴くことができ、素晴らしい貴重な体験ができました。

総会では、物故者への黙祷を行った後、会長・校長の挨拶があり、各議案の承認がなされ、つづいて行われた懇親会も盛況であり、最後は応援OBの指揮のもと校歌を高らかに歌い、幕を閉じました。



関東梅苑会だより

—— 小中学時代のことを
教えてください。

小学校、中学校と飯野町のどかな環境でのびのびと育ちました。母親が同じ小学校の教師をしていたので、低学年まではとてもおとなしい子どもでした。ただ、その反動なのでしょうが、高学年になると児童会長を務めるなど活発で積極的な性格になりました。中学に入ってから父の影響もあって卓球部に所属。試合では本番に強いタイプと言

われていました。

授業「カット」が楽しみ

—— 福高での学生生活の思い出は。

いちばんの思い出は勉強しなくなったことですね（笑）。いまもそうかもしれませんが、進学校なのに勉強をする、しないは本当に自由で生徒の自主性に任されていた。だから勉強をする生徒は一生懸命するし、



カルビー株式会社
代表取締役社長兼CEO
伊藤 秀二さん
(高校27回)

しない生徒は本当に何もしてませんでした。私自身、高3の夏休みになっても進路が定まらないような中途半端な生徒でした。いまでも福高の伝統として残っていると思いますが、授業の「カット」が楽しみでした。その日の時間割で休講がある、クラス委員が午後の授業を受け持つ先生に直談判して、空いた授業時間に前倒ししてもらいます。午後の早いうちに学校から解放され、本屋や映画館に行ったり、友人の家でレコードの音楽を聴きました。そんな自由な校風だったものですから、田舎から出てきた自分にとって、見るもの、聴くものすべてが刺激的なバンカラで自由な空

バンカラで自由な校風に刺激される日々 「勉強しなくなったこと」が一番の思い出

気に包まれていました。

梅苑祭も良き思い出です。仮装行列では、素肌に舞台の化粧道具である白いドーランを塗って、当時、国交正常化で中国から来日したパンダに仮装し、福女の前や市内を練り歩きました。それと、いまなお趣味にしている「プログレッシブ・ロックス」「ピンク・フロイド」をテーマにしたブースをつくりました。当時はフォーク全盛の時代でしたので、映像や照明にも凝った展示は珍しいものでした。

マーケティングに興味

—— 上京後の大学生活について。

大学では経営学部に進みました。モノをつくり、販売して、ヒットする商品にいかにつなげるかを体系として学ぶマーケティングに興味があったからです。ただ、当時大学はまだ学園紛争のさなかであって、ロックアウトが続いていました。校内に入れないわけですから、授業はおろか試験も受けることができません。大学4年間のうち試験は一度だけで、あとはすべて

—— 就職先にカルビーを選んだきっかけは。

就職活動は東京に本社がある企業を中心に、自分の興味や関心にかかせて業種を限定せずに回りました。他人から見れば脈絡がないように見えましたが、やはり食品業界が多かったような気がします。

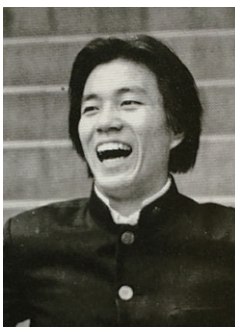
カルビーへの入社を決めたきっかけは、会社の商品が好きだったからです。それとマーケティングや広告がユニークだったからでしょう。楽しくて、面白い会社という雰囲気がありました。とくに会社説明資料に

ものづくりを 現場で経験

—— 新入社員のとときの思い出を
教えてください。

入社して最初に現場研修で4カ月ほど配属させられたのが名古屋工場でした。ここでは「チーズビット」という商品を製造していたのですが、当時の作業はまったくの人力でした。体力に自信のあった私は、そこで大きな釜をかき混ぜる最終工程を任せられました。道具は重し、熱い油ははねるし、職場環境はそれこそ厳しいものでした。でも商品が店頭に並んでいるのを見ると、「これがオレのつくった商品だ」と少し誇らしい気持ちになりました。

いまでも新入社員の現場研修制度は残っていますが、こうしたカリキュラムは「ものづくり」の重要性を学ぶ貴重な機会



高校3年生のころの伊藤さん

だと思っています。なにより私自身、工場管理の部門に興味を持つきっかけとなりました。当時、ベテランの現場の先輩から仕込まれた経験と知識がいまでも大きな強みとなっています。

—— 入社後のキャリアは。

トータルとしては営業が長いですが、生産、管理、経営企画、広報とあらゆる仕事をさせてもらいました。とくに新規ビジネスや新規部門の立ち上げといったプロジェクトの仕事にかかわりました。また、外部の方々の新しいネットワークづくりや、これまでにない新しい視点からの仕事は苦勞もありましたが、手探りしながら、貴重な経験を積むことができました。

—— カルビーという企業の
目指すものとは。

私自身、面白くて自由なことができる企業をイメージして入社したわけですが、現実に想像していた通りの会社だったと思います。当社は工場で商品を生

上場当日に 東日本大震災

—— 東日本大震災と郷土ふくしまへの思い出について。

震災当日の2011年3月11日は、当社にとっても忘れられ



長髪に下駄履きが当時の福高生の典型的なスタイルのひとつ(前列左から2人目が伊藤さん)

ない日となりました。ちょうど東証一部への上場当日だったからです。午前中、社長として取引初日となる打鐘のセレモニーを終え、午後3時からは記者会見を予定していました。その会見十数分前に震災が起きたというわけです。

当社でも生産設備が稼働停止し、オフィスへの被害がありました。が、震災直後から被災地域への物資や義援金、ボランティアの派遣といったさまざまな支援活動を展開しました。また、いくつかの民間企業と設立した「みちのく未来基金」を通じて、奨学金給付による震災遺児への進学支援にも取り組んでいます。物資による復興支援も大切ですが、教育を通じたこうした息の長い持続的な心の交流と支援が

—— 最後に福高生とOBの
皆さんにメッセージを。

卒業して大学に入り、社会人になっても福高出身という自信と誇りを忘れずにいていただきたい。自分の基礎が形成されるのは高校時代だと思います。みんな中学までバンカラでも何でもない人が、いざ入学すると自由な校風に育てられて誰もが福高生になる。これが伝統の力なのかも知れませんか。

いとう・しゅうじ
1957年生まれ。
1972年飯野中卒、
1975年福島高校卒、
1979年法政大学経営学部卒業後、カルビー株式会社入社、2009年代表取締役社長兼COO、2018年より現職。62歳。

2019年度関東梅苑会総会 特別講演 スペシャルゲスト

後藤 亘さん

(高校3回)

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社 代表取締役会長
株式会社エフエム東京 名誉相談役

〈テーマ〉

「FM放送草創とチャレンジ精神」

周りには様々なメディアが溢れていますが、ごく当たり前に聞いているFMの誕生について考えたことはありますか？今年の特別講演はFM放送の草創に携わられた高3回の後藤亘さんをお迎えし、新しい事業に取り組まれた当時の思いや、若手世代へのメッセージなどをお伺いしたいと思います。

松前重義氏との出会い

新卒で就職した会社は映画配給会社でした。テレビがまだ普及する前で、娯楽といえば映画が最も人気だった時代です。その頃、東海大学では超短波を使った通信教育放送の研究に取り組んでいました。超短波放送実験局として免許を取得し、1958年に放送を開始しています。当時総長の松前重義氏は通信省技官として入省し、戦後は通信院総裁に就任した人です。「超短波を使ったラジオ放送で、勤労者向けに高等教育を行いたい。この事業にぜひ協力してほしい。」同じ大学の先輩でもある松前氏の言葉に共感し、後藤さんは1960年、東海大学の超短波放送実験局に転職します。

FM実用化と事業化

当時、一般のラジオは中波と短波しか受信できない仕様でした。通信教育の普及のためには超短波を受信できるラジオが欠かせないため、パナソニックやソニー、AIWAなどの電機メーカーを訪問し、一社一社に事業の意義を訴えました。ある電機メーカーとの打ち合わせの時、ラジオの操作板に付ける名称の話になりました。従来の「中波」や「短波」という表現に合わせて、「超短波」と

いう表示が採用されそうになりましたが、これには強く反対します。字面的にユーザーに微弱電波の印象を与えるからです。音声電波に変換する時の方式、「Frequency Modulation」と「Amplitude Modulation」の頭文字をとって超短波放送は「FM」、従来放送は「AM」という提案をして、それが現在広く使われている名称になっています。

一方、放送運営の資金確保のために営業活動も行いました。営業当初は秋葉原の無線機器を取り扱う会社などにスポンサーになっていたきましたが、ステレオ放送が始まり、「FM」が広く認知されるに伴って、JALなどの大手企業がスポンサーに参画するようになります。時代の趨勢を強く感じることで

できました。その後、看板番組となった「ジェットストリーム」は、1967年から放送が開始され今でも続いています。

事業は順調に拡大し1970年、株式会社エフエム東京が設立され、東海大学超短波放送実験局（通称東海FM）の事業が引き継がれました。

64歳からのチャレンジ

1997年からは東京メトロポリタンテレビジョン（TOK

YO MX）の経営にも携わっています。TOKYO MXは多くの出資金を集めてスタートしたものの、当初からさまざまな要因で組織が機能せず収益も赤字で、マスコミや雑誌には散々な記事が掲載されていました。そんな状況の中、社長職を要請されます。エフエム東京のトップでしたので、断る選択肢もありましたが、あえて引き受けることを決断します。

現在86歳、放送業界の最年長と言われる中「これからどんどんチャレンジしていきたいです」とますます元氣です。講演では、きつと多くのことを感じていただけたと思います。

2019年度 関東梅苑会 総会

【日時】 2019年5月24日(金)
受付：17時半

1部：総会議事 18時
2部：特別講演 18時20分
3部：懇親会 19時15分
※2部・3部の開始時間は予定です。

【会場】 東京グリーンパレス (麹町)

2部・3部
からの参加も
大歓迎！

みやぎ梅苑会だより

「広げよう！親睦と交流の輪を みやぎ梅苑会」 みやぎ梅苑会総会・懇親会開催

平成30年度みやぎ梅苑会総会が9月13日(木)仙台市青葉区のハネル仙台にて開催されました。今年は大生からご来賓を含む80歳代まで62名の出席者が集い開会いたしました。

総会では橋本俊一氏(高21回)の司会のもと物故会員に黙祷を捧げた後、佐藤隆会長(高15回)が「同窓生の絆を深め、同窓会を盛り上げていきたい」と挨拶し議長席に着きました。

議案として①平成29年度事業報告・会計報告および監査報告、②平成30年度事業計画案・予算案が審議され何れも満場一致で承認されました。



恒例の懇親会では同窓会の渡辺健寿会長、久米允彦副会長、母校より竹田真二校長、赤井畑直明後援会長、関東梅苑会より渡邊誠副会長、島田久事務局長、同窓会本部より中原勝事務局次長をご来賓にお迎えして開会いたしました。挨拶に立たれた渡辺健寿会長から「花咲きみのりて 世の為立つ 福島高校 栄えよ永く」という思いを共有し創立120周年記念式典を行います、というご挨拶があり、竹田真二校長からは大学進学状況や文化部・体育部各部の活発な活動など文武両面で活躍する生徒の紹介を兼ねたご挨拶がありました。

仙台市を拠点に演奏活動をするフリーのチェロ奏者塚野淳一氏(高23回)が演奏を披露し懇親会が始まり、関東梅苑会渡邊誠副会長のご挨拶、恒例の初参加の方々のショートスピーチをいただきました。JRB本宮駅前で犬狗酒造を営む小針沙織氏(高58回)が仙台では手に入らない美味しい日本酒を紹介・販売。有志により楽天生命スタジアムに設置した「みやぎ梅苑会シート」の有志を代表して楽天野球団に勤務する武石真氏(高63回)が楽天イーグルスグッツ(ユニホーム・タオル)を大じゃんけん大会でプレゼントし会が盛り上がりました。同じ学び舎を巣立った同窓生がご来賓の方々を含め互いにテーブル間を移動し、世代・職域を超え和気藹々と賑やかに交流をいたしました。

その後、合唱部OBの西村晃一氏(高28回)、駒場悟氏(高32回)両氏のリードにより出席者全員で校歌を高らかに歌い上げ、第109代応援団長である齋藤準輝氏(高70回)の伸びと張りのある声のリードにより全員による応援歌とエールにて熱気は更にヒートアップ、参加者から「楽しかった。良かった。」との言葉をいただきました。

最後に関口哲雄副会長(高20回)の閉会挨拶で1年後の再会を期し、盛会裡に終了しました。

column

見事なハーモニで校歌を披露 第9回「土井晩翠先生が 作詞した校歌をいっしょに 歌いましょうの会」参加

仙台市出身の詩人 土井晩翠が作詞した全国各地の校歌を、在校生や同窓生が披露する題記の会(没後50年にあたる平成14年より隔年毎に開催)が10月21日(日)に土井晩翠氏の出身校である仙台市立立町小学校にて開催されました。(土井晩翠校歌資料室併設)

今回は北海道から鹿児島までの82の小・中学校・高校・大学・同窓会に案内を送り、CD・テープによる発表を含め、16校が参加いたしました。初めに「荒城の月」を全員で合唱し、続いて地元の小中学校在校生から高齢の卒業生達まで校歌を披露いたしました。



みやぎ梅苑会は平成15年の第2回より有志が集い継続して参加しており、今回も佐藤隆会長(高15回)初め10人が参加しました。福島から渡邊又夫氏(高5回)も駆けつけて頂き、学校紹介のあと校歌1・2・5番を披露、会場一杯に見事な声量とハーモニを響かせ満場の拍手を浴び地元紙にも掲載されました。なお、男声四部合唱は福島高校のみでした。

平成三十一年度の大学入試センター試験の志願者数は五十七万六千八百三十人で昨年より五千八百四十一人減少した。なお福島県内では昨年度とほぼ同じ出願数であった。現一年生からは「大学入学共通テスト」に変わるため次年度が最後のセンター試験となる。新制度を意識したと思われる対話形式の問題、複数の素材の読み取りから考察する問題などが見られたが、本校生は落ち着いて二日間の試験に臨んだようである。全国の科目別平均点では、近年難化傾向が続いていた国語が易化し、昨年難化した英語リスニングの点数も上昇した。理科の平均点がやや下降したものの、極端に難しいと感じられる科目はなく、七科目の平均点（九百点満点）は文系・理系ともに昨年度を十点上回ることになりそう。結果的に高得点者の層が厚い得点分布になっている。なお、理科や地歴公民の科目による点数差は比較的小さく、受験生にとっては公平な結果になったと言える。全国的な傾向としては、国公立大が堅調な人気を

進学展望

進路希望の動向



福島高等学校長 竹田 真二

この一年を振り返って

この4月に校長として着任いたしました。福島高校には二度目の勤務であります。一度目は、平成十年度から十五年度までの六年間でありました。平成十年度は創立百周年記念事業の年であり、平成十五年度は男女共学になった年であります。今思えば、福島高校にとって大きな節目のときでありました。一度勤めた経験があると申しまして、十五年から二十年前でありますし、男子校時代でありますので、ほとんど初めての学校という認識で着任いたしました。しかしながら、伝統の応援歌講習には、男子校時代のパンカラな古きよき時代を彷彿とさせるものがありました。また、梅苑祭に代表される生徒の活動には、自由闊達な校風が色濃く残っております。時がたち学校の有り様が変わっても、生徒たちの中には梅章精神が受け継がれていることを実感しているところであります。

ありますが、その活躍は多岐にわたっております。運動部では、全国高等学校体育大会に、アーチェリー部（女子団体、男子個人）、ソフトテニス部（男子個人、剣道部（男子個人）、陸上部（男子4×400mリレー、男子400m）が出場しました。また、野球部が夏の大会で十四年振りにベスト8に進出し、校内はもとより同窓生の皆さんも大いに盛り上がりました。文化部では、全国高等学校総合文化祭に、将棋部（個人）、梅章委員会、SS（スーパーサイエンス）部が出場しました。SS部については、放射線量の研究や魚の養殖に適した水の研究など、幅広い活動が評価され、福島民友新聞社主催のみんなの県民大賞にて「ふるさと創生賞」を受賞しました。また、全国約二百校の名だたるSSH校が会するSSH全国生徒研究発表会にて、「プラズマによる流体制御の研究」で第二席相当の賞を受賞しております。

このような中、十月末に本校にとってショッキングな発表が県教育委員会からございました。それは、三十一年度の入学生から一クラス減の七クラス、すなわち一学年二百八十名になるということです。少子化の波が本校にも押し寄せてまいりました。さらに、現高校一年生から大学入試が変わるなど、学校及び生徒たちを取り巻く環境はここ数年で大きく変化してまいりますが、福島高校としてのよりよい在り方、新しい方向性を模索していきたいと考えておりますので、今後とも御支援と御協力をお願い申し上げます。

部活動成績 福高生、全国で活躍

- 【陸上競技部】
 - 全国高等学校体育大会 個人戦 瀧戸皓斗・大内悠生
- 【将棋部】
 - 全国高等学校文化連盟将棋新人大会 熊谷恭平
- 【剣道部】
 - 全国高等学校体育大会 男子個人 神野吾友
- 【アーチェリー部】
 - 全国高等学校体育大会 男子個人 小林歩夢 女子団体 渡邊みう、佐藤実結、田地野美桜
- 【ソフトテニス部】
 - 全日本シングルスソフトテニス選手権大会 大内悠生
- 全国高等学校体育大会 個人戦 瀧戸皓斗・大内悠生
- 【将棋部】
 - 全国高等学校文化連盟将棋新人大会 熊谷恭平
- 【スーパーサイエンス部】
 - SSH 全国生徒研究発表会 国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞 「プラズマによる流体制御の研究」 高島元希、澁谷佳輝、佐々木隼暉
- 第62回日本学生科学賞 県審査 福島県知事賞 県代表 全国入選2等 澁谷佳輝、佐々木隼暉
- 【梅章委員会】
 - 全国高等学校総合文化祭新聞部門 年間紙面審査賞 優良賞

入試出願状況（現役の延べ数・推薦、AOは含まない） 2月6日現在

項	大学名	平成31年	平成30年	平成29年	平成28年
国公立大	北海道大	23	11	16	16
	岩手大	7	3	11	6
	東北大	54	77	59	75
	山形大	32	16	23	34
	福島大	91	69	68	89
	茨城大	17	9	8	17
	筑波大	17	9	18	12
	宇都宮大	8	11	6	3
	埼玉大	14	19	14	13
	千葉大	30	26	31	29
	東京大	14	14	10	10
	東京外語大	1	4	5	3
	東京工業大	5	3	6	3
	一橋大	4	2	0	0
	横浜国立大	6	6	2	8
私立大	新潟大	52	46	52	27
	京都大	6	2	4	6
	その他	45	62	66	44
	県立医科大	36	33	22	28
	県立会津大	3	3	3	1
	高崎経済大	9	14	7	6
	その他	31	21	46	40
	東北学院大	25	16	13	15
	青山学院大	8	28	19	14
	慶應義塾大	8	12	8	14
	上智大	3	4	10	8
	中央大	31	47	66	65
	東京理科大	27	14	21	28
	日本大	25	18	25	26
	法政大	40	68	50	51
	明治大	44	67	58	66
	立教大	14	20	33	19
	早稲田大	39	54	56	40
	その他	289	327	254	269
国立大学合計		426	389	399	395
公立大学合計		79	71	78	75
私立大学合計		553	675	613	615
総計		1,058	1,185	1,090	1,085

大学合格者数（過年度卒を含む）

項			平成 30年	平成 29年	平成 28年	平成 27年
合格者数	国公立大	北海道大	6	4	6	10
		岩手大	2	5	5	2
		東北大	34	34	40	41
		山形大	6	12	14	12
		福島大	25	36	29	24
		茨城大	3	2	8	4
		筑波大	2	5	6	6
		宇都宮大	8	3	3	0
		埼玉大	6	10	8	5
		千葉大	14	8	12	7
		東京大	5	3	6	5
		東京外語大	1	2	2	2
		東京工業大	0	3	1	0
		一橋大	0	0	0	0
		横浜国立大	0	3	4	2
		新潟大	13	20	16	13
		京都大	3	2	2	3
	その他	38	26	29	26	
	県立医科大	18	20	17	15	
	高崎経済大	4	2	1	3	
	その他	11	18	13	11	
	小計	199	218	222	191	
	私立大	慶應義塾大	2	7	11	14
		早稲田大	14	23	27	20
		中央大	19	35	31	42
		明治大	27	27	27	31
		法政大	15	25	33	25
立教大		7	14	9	15	
日本大		22	23	18	12	
東北学院大		13	6	7	5	
同志社大		8	4	2	3	
その他		210	239	278	262	
小計	337	403	443	429		
準大	大学	0	2	2	1	
短期大	学校	2	0	3	1	
各種学	校	2	1	4	0	
合	計	540	624	674	622	
就	職	1	3	0	0	

寄贈図書紹介（平成30年1月～12月）

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)
2018.01.10	東京叙情詩集 I LOVE TOKYO	津守秀祐輝	津守秀祐輝	2018.07.30	裏山の宇宙船 (上)(下)	笹本祐一	東京創元社
2018.01.10	地域の先覚者 森谷岩松の人物像	赤間利晴	赤間利晴	2018.07.30	怪物はささやく	バトリック・ネス	東京創元社
2018.02.07	七五調源氏物語 11	中村博	中村博	2018.07.30	何が困るかって	坂本司	東京創元社
2018.02.07	いっしょに 2017	「いっしょに2017」制作委員会	高松ボランティア協会	2018.07.30	ペンギンは空を見上げる	八重野統摩	東京創元社
2018.02.07	貸金業と過払金の半世紀	阿部芳久、阿部高明	阿部芳久(福高18回卒)	2018.07.30	屍人荘の殺人	今村昌弘	東京創元社
2018.02.07	自治体職員のための ようこそ地方自治法 改訂版	板垣勝彦	板垣勝彦(福高51回卒)	2018.08.30	地球のために、未来のためにSATREPS	小西淳文	国際協力機構
2018.02.20	抜萃のつづり その七十七	熊平製作所	クマヒラ	2018.08.30	地球のために、未来のためにSATREPS Vol.2	小西淳文	国際協力機構
2018.02.20	料理マスターズガイド 2017	高橋喜幸	料理マスターズ倶楽部	2018.08.30	農学の知を復興に生かす	中井裕、他	東北大学菜の花 プロジェクト
2018.02.20	第15回「八香会となかま展」出品作品の 記録	八香会	八香会(福高8回卒)	2018.08.30	権利濫用の理論 民法の研究V	菅野耕毅	菅野耕毅(福高8回卒)
2018.03.16	共同体のかたち イメージと人々の存在をめぐって	菅香子	福高職員	2018.09.18	台湾 四百年の歴史と展望	伊藤潔	齋藤允賀(福高48回卒)
2018.03.16	七五調源氏物語 12	中村博	中村博	2018.09.18	思想家ドラッカーを読む リベラルと保守のあいだで	仲正昌樹	齋藤允賀(福高48回卒)
2018.03.16	続 輝く瞳に会いに行こう	原田義之	原田義之(福高14回卒)	2018.09.18	公務員をめざす人に贈る行政法教科書	板垣勝彦	板垣勝彦(福高51回卒)
2018.03.16	事例法学 憲法・民法・医事法入門	菅野耕毅	菅野耕毅(福高8回卒)	2018.09.18	七五調源氏物語 14	中村博	中村博
2018.03.16	事例民法入門	菅野耕毅	菅野耕毅(福高8回卒)	2018.09.18	そうだったのか!初耳恐電学	富田京一	富田京一
2018.03.16	事例法学入門	菅野耕毅	菅野耕毅(福高8回卒)	2018.10.15	星の子	今村夏子	図書館選書実習
2018.03.16	往復書簡-響き合う志-	鈴木悦郎、菅野耕毅	菅野耕毅(福高8回卒)	2018.10.15	未来	湊かなえ	図書館選書実習
2018.04.06	わたしの日本学び	東北大学大学院文学研究科	東北大学大学院文学研究科	2018.10.15	正伝岡田以蔵	松岡司	図書館選書実習
2018.04.06	地方自治論 変化と未来	幸田雅治	板垣勝彦(福高51回卒)	2018.10.15	その悩み、哲学者がすでに答えを 出しています	小林昌平	図書館選書実習
2018.04.06	わかりやすい放射線物理学 改訂3版	多田順一郎、他	多田順一郎	2018.10.15	残像に口紅を	筒井康隆	図書館選書実習
2018.04.06	海洋白書 2018	笹川平和財団海洋政策 研究所	笹川平和財団海洋政策 研究所	2018.10.15	君の名前で僕を呼んで	アンドレ・アジマン	図書館選書実習
2018.04.06	飛び立て未来 FP技能士	ノースアイランド	金融財政事情研究会	2018.10.15	朝が来るまでそばにいる	彩瀬まる	図書館選書実習
2018.04.13	県文学集 65 平成29年度版	福島県文化スポーツ局 文化振興課	福高職員	2018.10.15	やがて海へと届く	彩瀬まる	図書館選書実習
2018.04.13	騙し絵の牙	塩田武士	福高職員	2018.10.15	名探偵コナンに学ぶ ロジカルシンキングの超基本	上野豪	図書館選書実習
2018.04.13	ふたご	藤崎彩織	福高職員	2018.10.15	マスカレード・ホテル	東野圭吾	図書館選書実習
2018.04.13	福島市統計書 平成29年版	福島市総務部情報政策 課統計係	福島市	2018.10.15	マスカレード・イブ	東野圭吾	図書館選書実習
2018.05.21	県文学集 65 平成29年度版	福島県文化スポーツ局 文化振興課 II 編	福島県文化振興課	2018.10.25	福島県立福島高等学校創立120周年 記念誌 福高この十年	福島県立福島高等学校創立120周年 記念事業実行委員会	福島県立福島高等学校創立120周年 記念事業実行委員会
2018.05.21	ルーデンス佐藤の回顧録九十年	佐藤庄市郎	佐藤庄市郎 (福中39回卒)	2018.10.25	資質・能力を育てる学校図書館活用 デザイン	福井達也	県北地区高等学校図書館 研究会
2018.05.21	薫菴を遊びて 戊辰150年記念	岩澤信千代	岩澤信千代	2018.12.06	「心の除染」という虚構	黒川祥子	角田勝重(福高14回卒)
2018.07.10	農業がわかると、 社会のしくみが見えてくる	生源寺真一	生源寺真一	2018.12.06	いま君に伝えたいお金の話	村上世彰	齋藤允賀(福高48回卒)
2018.07.10	農業が世界を救う! 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺真一、他	生源寺真一	2018.12.06	現代思想の名著30	仲正昌樹	齋藤允賀(福高48回卒)
2018.07.10	七五調源氏物語 13	中村博	中村博	2018.12.06	〈学園〉の取扱説明書 改訂版	仲正昌樹	齋藤允賀(福高48回卒)
2018.07.10	生物学はいかに創られたか	柴井博四郎	バイオ未来キッズ	2018.12.06	いまこそハイエグに学ぶ 「戦略」としての思想史	仲正昌樹	齋藤允賀(福高48回卒)
2018.07.10	平成29年度記録集「文化の継承と創造」	福島県高等学校文化 連盟	福島県高等学校文化 連盟	2018.12.06	精神論めきの保守主義	仲正昌樹	齋藤允賀(福高48回卒)
2018.07.10	外交官石射猪太郎書簡集 (上)(下)	石射八郎	石射八郎	2018.12.06	〈日本の思想〉講義 ネット時代に、丸山眞男を熟読する	仲正昌樹	齋藤允賀(福高48回卒)
2018.07.30	魔導の系譜	佐藤さくら	東京創元社	2018.12.06	活版印刷三日月堂 海からの手紙	ほしおさなえ	福高職員
2018.07.30	翼を持つ少女 (上)(下)	山本弘	東京創元社	2018.12.06	七五調源氏物語 15	中村博	中村博
				2018.12.21	句集 尺蠖の道	堀切克洋	堀切克洋(福高54回卒)
				2018.12.21	句集 福島	赤間晴	赤間晴

(その他多数の寄贈圖書をいただきました)

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成30年度 同窓会役員

会長	渡辺 健寿	高17回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	佐藤 隆	高15回
副会長	久米 允彦	高16回
副会長	片平 薫市	高19回
副会長	戸松 哲男	高19回
常任理事	佐藤 紀男	高11回
常任理事	磯貝 健郎	高13回
常任理事	林 恭良	高14回
常任理事	永倉 禮司	高15回
常任理事	富田 建一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	熊坂 英二	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	本多 修二	高20回
常任理事	渡邊 誠	高25回
監事	鈴木 芳喜	高19回
監事	松野 孝司	高20回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回
理事	上竹 豊	高14回

理事	萩原 義弘	高14回
理事	岡崎 勇三郎	高15回
理事	鈴木 興一	高16回
理事	渡辺 博美	高17回
理事	横山 純	高17回
理事	木戸 孝志	高17回
理事	小林 勇一	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	斎藤 高紀	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	伊藤 幹夫	高20回
理事	網代 智盟	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	佐々木 孝司	高21回
理事	中田 茂実	高21回
理事	尾形 克彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回
理事	木村 豊	高22回
理事	菅野 日出喜	高23回

理事	加藤 典義	高23回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	穂積 寿男	高23回
理事	鈴木 浩一	高23回
理事	高橋 雅行	高24回
理事	渋谷 修一	高24回
理事	石原 裕人	高24回
理事	高荒 俊勝	高24回
理事	渡辺 久	高25回
理事	高橋 通夫	高25回
理事	後藤 忠久	高26回
理事	土屋 牧雄	高26回
理事	丹治 正博	高26回
理事	武藤 進	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	鈴木 眞一	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	五十嵐 俊道	高28回
理事	加藤 勇治	高29回
理事	金子 弘保	高29回
理事	土田 淳	高29回

理事	島田 久	高31回
理事	八子 直樹	高31回
理事	大和田 利明	高31回
理事	太田 英晴	高31回
理事	樋口 幸一	高32回
理事	藤野 貴	高32回
理事	篠木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回
理事	関根 英樹	高33回
理事	渡辺 健二	高33回
理事	手塚 徹	高34回
理事	菅野 剛広	高34回
理事	鈴木 宏幸	高36回
理事	阿久津 順二	高37回
理事	黒森 陽一	高37回
理事	板垣 隆	高37回
理事	三浦 康伸	高39回
理事	日下 直哉	高39回
理事	佐藤 智宏	高39回
理事	引地 孝之	高44回
理事	吉田 大樹	高45回
理事	遠藤 武義	高52回

平成30年度 同窓会事務局員

田中 訓樹	高22回
鈴木 公一	高32回
国分 聡	高33回
丹治 崇	高36回
渡邊 兼綱	高36回
高橋 文彦	高36回
佐藤 隆夫	高37回
中原 勝	高41回
八巻 勤	高42回
菅野 祐智	高44回
我妻 智	高46回
松井 暢彦	高53回
菅野 陽介	高54回
黒澤 光希	高60回

同窓会事務局（福島高校内）

〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392
http://www.baienkai.org

みやぎ梅苑会事務局

〒981-0923 仙台市青葉区東勝山二丁目22-6
TEL.022-275-2887（落合 敏伸）

関東梅苑会事務局

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358（渡邊 誠）
http://www.kantobaienkai.ne.jp/index.html